豊島区立 12.12.22 郷土資料館

雑司が谷旧宣教師館だより

第１７号
2000年12月10日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館
〒171-0032　東京都豊島区雑司が谷1-25-5　☎ＦＡＸ(03)3985-4081

10月から２ヵ月にわたる外壁塗装工事を終え、12月１日（金）に雑司が谷旧宣教師館はリニューアルオープンしました。今回の工事にあたり専門的な立場から助言をいただきました山口先生に、文化財の復元工事の苦労話を伺いました。

文化財（建造物）修復工事の留意点（談）

日本大学名誉教授　山口廣氏

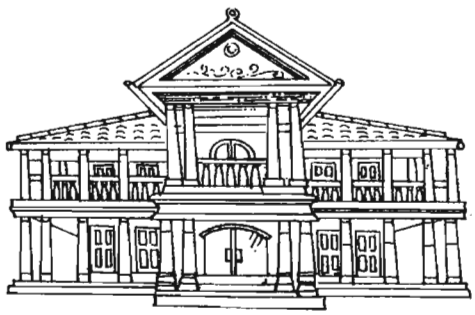
【建物の元の色を探し出す】

文化財の修復で問題なのはペンキなんですよね。元の色を探して、その元の色に復元することが大事なんですけど写真じゃわかんないんですよ、昔は写真は白黒だから。そうすると表面は何度も塗り返しをしているので丁寧に剝がしてその一番最初の色を見つけるか、或いは板と板の間に垂れて入っているのを探してこれが最初の色だと見つけるわけです。そうやって元の色を見つけて塗っていくんです。

【ペンキの質感の違い】

今回も問題になったのですが、昔のペンキは今のペンキと違うんですよね。亜麻仁湯で溶いているんです。今のペンキは合成樹脂で出来ていて伸びがいいんですよ。昔のは繰り返し塗るとボテボテになるんだけど、今のはすうーと塗れるんですよね。ただやっぱり感じが違うんです。重厚感というかそういうものがないので昔のペンキをさがして貰ったのですが、前回はやっと見つけられたけれど今回はどこをさがしてもなかった。それで仕方なしに合成樹脂系のペンキで塗り直しをしたわけです。そうするとやっぱり色の出方の違うんですよね。

ただ昔はペンキを調合しないといけません。緑なら緑を現場で、そうそこの庭で調合したんですよ。だけど今回は工場で、これだっていうとそれに合わせて調合してくるわけですよね。調合はし易いんです。だけど塗った感じが違うんですよ。色とペンキの問題が一つあります。



【湿気が木の大敵】

それから木ですから、陽の当たらないところ、雨のかかるところ、そこがどうしても腐り易い。２階の浴室の外側のところは木が枝を延ばしていたものだから、そうすると風が抜けないんですよ。そこで板のペンキがだんだん古くなるとひびが割れてめくれたりして、そこに水が入ってしまうんですよ。

陽が当たっている時はみな蒸発するけれど、北側の方は水がずうっと入ったままで木を腐らせてしまう。どうしても木の場合腐りが出てきますからね。自由学園の明日館も地面に接したところは全部腐っちゃっている。

【質素な材料】

ことに宣教師館ってお粗末なんですよね、材料的に。というのは少しでもお金があれば教会に、でなければ自分たちの教団のほうに献金をしてしまって最小限の費用で作っていますからね。ですからそういう意味で材料がお粗末ってことは日本の場合ですと杉が主で、見えないところでは松の梁を入れたりしますけどだいたい杉を使うということです。

杉というのは切って建物に使った時が一番強くてどんどん弱くなるんですよ。百年間でだいたい３ミリ一分というふうに脆くなっていってしまう。ところが檜とか欅は切って製材した時よりももっと強くなるんですよ。で、ずっとその硬さが持続する。檜を使いますと簡単にいうと切った時まで木が何百年育ったか、例えば五百年の檜を切ると材料に使っても五百年持つっていうんです。

【手入れが肝心】

そんな訳で手入れをしてあげないといけない。その手入れを怠ると一番怖いのは雨漏りそれから白蟻

その二つが一番怖いですよ、建物にとってね。今回は白蟻の駆除もやりましたね。あとは屋根の雨漏りが怖いですね。

壁面もすその部分が垂直より少し出ていますから水切れがそこのカーブのところで止まってしまう。風通しが良ければそういうことが防げるんですが。

あとは建物の角の所で風が渦を巻くんですね。どんな場合でも、ビル風もそうなんですよ。そうすると南側に雨が当たっても西側の方まで雨が廻ることがあるんですよね。その点は気をつけないとね。ですから角の所の羽目板の口がほんの少し開いていたしょ、ああいう所がちょっと気になって。雨の粒っていうのは均一じゃないんですよね。大きい粒もあるけれど霧みたいに小さい粒もありますから、それがさあっと廻ってしまうんですね。

【塗装は5～10年、様子をみて】

塗装は5～10年の間に塗り直しておけば一番間違いないんですけね、費用の問題がありますから。3年とかそこまで神経質にならなくてもいいですが、陽の当たらない方を気をつけて、屋根面なんかもそうですが、それですこしクラックが入ったところを早めに塗っといてやればいいわけです。今回も塗料すこし預かっていますでしょ、白と緑を。それで塗ってくだされば いいと思います。（談）

東京カテドラル 聖マリア大聖堂

（　周辺の名建築Ⅲ　）

目白通りに面してそびえ建つローマカトリックの教会堂。我が国を代表する建築家のひとり丹下健三の設計により昭和39年に完成した。Ⅱ．P．シェル構造により直線と曲線を巧みに組合わせた独特の外観とステンレススチールによる外壁が現代的な聖堂を印象付けている。空から見ると十字架の形に見えるのも特徴。内部では構造が生み出す形と鉄筋コンクリート打放しにより緊張感があふれた崇高な宗教空間を表現している。コンサートの会場としても使用されている。　（所在地　文京区関口三丁目）

来館者の声

♡私はアメリカ人。このビルは本当に古いアメリカビルみています！びっくりした。（20代．女．新宿．東京ガイド本．初めて．徒歩．12／3）

♤もう少し当時の調度品を展示してほしい。（30代男．都内．東京地図．2回目．車．12／3）

※館内の展示で、当時マッケーレブが使っていたものはライティングデスクだけです。来館者の声も「余計な展示は不要」や今回のようなご意見と様々な要望が寄せられます。共に歴史的建造物に対する関心の高さと有り難く拝聴し、管理運営の参考にさせていただきます。

—リニューアルオープン記念第一弾 —

郷土玩具を作ろう！

五色の風車と 麦藁細工の角兵衛獅子

現在、雑司が谷鬼子母神の郷土玩具といえば「穂すすきのみみずく」がその代表といえますが、200年前の元禄時代、鬼子母神詣での人気の土産は五色の風車でした。それから後に藁で作った角兵衛獅子が売り出され、詣でた人々が弦巻川（現在は暗渠）をのぞみ、建ち並ぶ料亭で珍しい野鳥料理に舌つづみをうち、家族へのお土産にこれらの玩具を買って帰ったのでしょう。

しかし五色の風車も麦藁細工の角兵衛獅子も、天保の改革以降すがたを消してしまいます。歌麿の浮世絵にも描かれた幻の郷土玩具復元を前号で紹介しましたが、反響が大きかったので早速講習会を計画しました。大人用・子ども用の二種類の材料があります。（完成品は同じ）奮ってご参加ください。

復元した風車と角兵衛獅子
カット　矢島勝昭氏

日時：平成13年1月27日（土）
午後2時～4時
場所：本館事務棟研修室
講師：矢　島　勝　昭　氏
（郷土史研究家）
費用：1，000円（材料費）
対象：どなたでも
定員：20名（先着順）
申込：直接当館か電話で(3985)4081（月曜・第三日曜・祝日の翌日休館）
協力：「雑司が谷界隈」

【編集後記】外壁塗装工事中、山口先生には度重なる色合わせ・腐食状況の点検等幾度も足を運んで頂きました。心から御礼申し上げます。（文責浜地）